

塔 和子 年譜

1929年（昭和4年）	8月31日 愛媛県東宇和郡（現・西予市）明浜町田之浜で、八人兄弟の三番目（次女）として生まれる。	当歳
1943年（昭和18年）	6月21日、ハンセン病により、国立療養所大島青松園（香川県木田郡庵治町）に入園。	14歳
1951年（昭和26年）	9月27日、同園の赤沢正美と結婚。	22歳
1952年（昭和27年）	特効薬プロミン投与により、ハンセン病が完治。	23歳
1953年（昭和28年）	赤沢正美の指導で短歌を始める。名前を塔和子（ペンネーム）とする。	24歳
1958年（昭和33年）	この頃から短歌から詩の創作に転向。NHKラジオ番組「療養芸芸」に投稿、選者・村田四郎の評価を受ける。	29歳
1960年（昭和35年）	同人誌「黄薔薇」（主宰・永瀬清子）に入会。	31歳
1961年（昭和36年）	第1詩集『はだか木』を河本睦子の協力により、デジレ・デザイン・ルームより出版。	32歳
1964年（昭和39年）	園内のキリスト教教会で洗礼を受ける。	35歳
1969年（昭和44年）	第2詩集『分身』（私家版）出版。	40歳
1973年（昭和48年）	第3集『エバの裔』（燎原社）出版。H氏賞候補となる。8月、弟の井土一徳と井土八羅が、高松市内で約30年ぶりに再会する。	44歳
1975年（昭和50年）	この頃、阪神間の大学生に招かれ、神戸で講演する。また、大阪在住の末弟の井土八羅の家に宿泊。	46歳
1976年（昭和51年）	第4詩集『第一日の孤独』（端牛社）出版。H氏賞候補となる。詩誌「戯」（主宰・扶川茂）の同人となる。	47歳
1978年（昭和53年）	第5詩集『聖なるものは木』（花神社）出版。H氏賞候補となる。	49歳
1980年（昭和55年）	第6詩集『いちま人形』（花神社）出版。	51歳
1983年（昭和58年）	第7詩集『いのちの宴』（編集工房ノア）出版。	54歳
1986年（昭和61年）	第8詩集『愛の詩集』（海風社）出版。	57歳

1987年（昭和62年）	楽譜『めざめた薔薇』（作曲・柳川直則）を音楽之友社から発行。	58歳
1988年（昭和63年）	第9詩集『未知なる知者よ』（海風社）出版。	59歳
1989年（平成1年）	第10詩集『不明の花』（海風社）出版。	60歳
1990年（平成2年）	楽譜『人の林で』（作曲・柳川直則）を音楽之友社から発行。第11詩集『時間の外から』（編集工房ノア）出版。	61歳
1991年（平成3年）	楽譜『帽子のある風景』（作曲・柳川直則）を音楽之友社から発行。	62歳
1993年（平成5年）	第12詩集『日常』（日本キリスト教団出版局）出版。	64歳
1994年（平成6年）	詩画集『めざめた風景』（小島喜八郎画）を三元社から発行。	65歳
1995年（平成7年）	第13詩集『愛の詩』（編集工房ノア）出版。	66歳
1996年（平成8年）	第14詩集『見えてくる』（編集工房ノア）出版。	67歳
1998年（平成10年）	第15詩集『記憶の川で』（編集工房ノア）出版。	69歳
1999年（平成11年）	『記憶の川で』により、第二十九回高見順賞（高見順文学振興会主催）を受賞。詩選集『いのちの詩』（編集工房ノア）出版。	70歳
2000年（平成12年）	第16詩集『私の明日が』（編集工房ノア）出版。 11月2日　夫の赤沢正美逝去。81歳。	71歳
2002年（平成14年）	3月19日～4月7日にかけて、「思想の詩人・塔和子～〈在る〉ことを静かに見つめようとする眼差し」が、香川県立図書館で開催。 香川県より知事表彰「教育文化功労賞」を受賞。第17詩集『希望の火を』（編集工房ノア）出版。第18詩集『大地』（編集工房ノア）出版。第44回香川県芸術祭「香川芸術フェスティバル2002」で、「朗誦と合唱で繰る塔和子の世界」が公演。ゲストで招かれて挨拶。	73歳
2003年（平成15年）	第19詩集『今日という木を』（編集工房ノア）出版。　ドキュメンタリー映画「風の舞一闇を拓く光の詩」完成（監督・宮崎信恵、詩の朗読・吉永小百合）	74歳
2004年（平成16年）	第62回「山陽新聞賞」（文化功労）を受賞。『塔和子全詩集』（全三巻）第一巻（編集工房ノア）出版。『ハンセン病文学全集』第7巻（皓星社）に、「はだか木」ほか九詩集から65篇が収録される。10月2日、高松市内で第24回全国豊かな海づくり大会にご出席中の天皇・皇后両陛下と歓談。75歳	

2005年(平成17年)	『塔和子全詩集』第二巻(編集工房ノア)出版。	76歳
2006年(平成18年)	『塔和子全詩集』第三巻(編集工房ノア)出版、全三巻が完成。『愛の詩集』『未知なる知者よ』『不明の花』の改裝版が海風社より発行。	77歳
2007年(平成19年)	4月にリニューアルされた「国立ハンセン病資料館」に、塔和子資料が常設展示される。4月15日 「塔和子文学碑」が、故郷の西予市明浜町大早津シーサイド・サン・パーク内に建立され、その除幕式に出席、多数の市民に歓迎された。その石碑には「胸の泉」の詩が刻まれた。詩選集『いのちと愛の詩集』(角川学芸出版)出版。	78歳
2008年(平成20年)	4月2日、2基目の「塔和子文学碑」が、故郷の西予市明浜町の大崎鼻公園内に建立される。石碑に「ふるさと」の詩が刻まれた。塔和子詩選集『希望よあなたに』(文庫判・編集工房ノア)を出版。	79歳
2009年(平成21年)	2月、安宅温氏が『命いとおし 詩人・塔和子の半生—隔離の島から届く魂の詩』(ミネルヴァ書房)出版。4月30日、女優・吉永小百合さんが大島青松園来園、訪問を受ける。他の入所者とも交流。	80歳
2011年(平成23年)	「塔和子展」が、5月21日から6月26日まで国立ハンセン病資料館で開催。国立ハンセン病資料館と「塔和子の会」共催。期間中「塔和子をうたうビアノ弾き語りコンサート」(沢知恵)や塔和子ドキュメンタリー映画「風の舞」上映、塔和子詩集の読書会が行われた。	82歳
2012年(平成24年)	6月、歌手・沢知恵が塔和子の詩「胸の泉に」等を収録したCD「かかわらなければ~塔和子をうたう」を発表。	83歳
2013年(平成25年)	3月25日、女優・吉永小百合さんが再度大島青松園来園、訪問を受ける。入所者と一般向けに主演映画「北のカナリアたち」が上映。 8月28日、急性呼吸不全で死去。満83歳。園内の協和会館で告別式。8月30日、朝日新聞「天声人語」が、死去全文で報ずる。	
2014年(平成26年)	10月6日、「ハンセン病問題を考える市民の会」が、高松市内で映画「風の舞」上映と読書会で「塔和子さんを追悼するつどい」を開催。 11月3日、「塔和子の会」主催で、「塔和子さんを偲ぶ会」を園内の大島会館で開催。 3月17日、愛媛県西予市明浜町の井土家の墓に、本名の井土ヤツ子の名で分骨。親族、地域住民、西予市関係者、塔和子の会など約30人が参列。	84歳

2014年 現在の療養所 139所
S18年12月の開院数から順位115位

(川崎正明編)